

編集後記

近年、当センターを取り巻く環境も社会情勢に応じて年々変化の兆しが顕著になってきている。本年度は県の外郭団体の見直しで外部機関による経営調査も行われ、経営改革・意識改革が求められている状況である。

センターの業務の大半は、一般調査受託事業が多くのウェイトを占めているが、調査研究活動も必要な業務であり、その成果を、研究者だけではなく多くの県民の方々等に広報・普及の観点から情報の提供を行うことは、これに従事している者の責務であり、様々な媒体を使って行うことが必要であり、この研究連絡誌もその媒体の一つであり、今後もぜひ活発な投稿を期待している。

本号に掲載された、4編は資料紹介、報告と、それぞれテーマが異なりおもしろい内容になっている。

「佛」墨書土器の出土状況は、当該遺跡の紹介にとどまらず、県内の集成を行った点は多方面での活用が期待される報告である。

多古町五十塚の資料紹介は、昭和40年に採取された資料が38年の歳月を経て紹介されたが、約40年間資料を保管し、発表に至るという行為は、とても地味な活動ではあるが、我々の考古学への取り組み姿勢の初心を喚起させるような報告である。

考古学的資料のデータベース化は、考古学を学ぶ者にとっては結構苦手な分野でもあり、また単純にデータ化ができない領域でもある。しかしながら、様々なOA機器は否応なしに職場にも進出し、機器の活用により、正確、迅速にデータの集積・公開ができるようになり、また作業効率も上がっていることも事実である。

平成11年度から開始された「土器と古代“宅配便”」の4年間の成果を公表することで、当センターにおける普及事業の新たな展開を提示することができた。13年度からは、県教育委員会から受託事業「学校等における出土文化財の活用」が新たに加わり、併せて事業展開が行われた。当センターで仮保管している膨大な出土品の活用において、出土遺物巡回展での活用に加え、学校等での活用で新しい方向性が示された。非常に効果的な事業であり、今後も継続して実施したい事業である。

当センターでは、ホームページの公開、出土遺物巡回展、現地説明会、体験教室等様々な広報普及活動を展開しているが、これまで以上に普及活動の重要性が問われている昨今である。

本連絡誌をととして、様々な情報を発信できれば幸いであると考えている。

研究連絡誌 第64号

平成15年3月28日 発行

発行者 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
電話 (043) 422-8811
URL / www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

印刷所 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6
電話 (043) 233-2235